

1. 運営目標

- 社会、地域、家庭とつながり、生き生きと主体的に生きる人を育てる
- ・法人創始者、賀川豊彦の貧しい人々を助けたキリスト教精神を引き継ぐ。
- ・社会、組織、人とのつながりを大切にす。
- ・子どものこころの傷を手当てし、自尊感情を育む。
- ・成長する子どもの力を信頼し、それぞれの個性を尊重して養育にあたる。
- ・養育の連続性を大切にす。

2. 中期3カ年計画における2016年度分析と2017年度の計画

I. ミッションステートメント2009

【2016年度分析】

- ・ガーデンロイマニュアルの中で讃美歌、聖書朗読、主の祈りの意味を確認した。
- ・全ホーム小規模グループケア体制に整えた。
- ・学童に対し、学研や家庭教師を利用して、一人ひとりに合った学習支援を行った。
- ・毎朝の職員礼拝や朝礼、毎月の職員会議、研修会などで法人、施設の使命を随時確認した。
- ・幼稚園児以上を対象にセカンドステップを行い子ども自身が生きる工夫を身に付けられるようにしている。

【2017年度計画】

■つながる

MSの根拠：「わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす」

「わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす」

○社会とつながる

- ①地域の子ども会へ積極的に参加する ②ボランティアを通していろいろな社会とつながる ③職員と愛着関係を構築し行動範囲を広げる ④様々な人との出会いの場をつくる

○地域とつながる

- ①地域の行事に積極的に参加する ②地域行事参加で地域のロイ理解を促進する

○家庭とつながる

- ①退所後も支援の窓口として相談しやすい環境を整える ②ロイでの生活が家庭に近いものであるように支援する ③保護者、里親と情報共有し相互理解を深める ④自然体験や社会体験を通して家庭生活に必要な土台をつくる

■よりどころ

MSの根拠：「わたしたちは、平和をつくりだす」

「わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす」

○ホームが家としてのよりどころ

- ①ロイが自分の家、居場所、安心して帰ることのできる場所であるように環境を整備する ②子どもが落ち着くことができる空間をつくる

○職員が心のよりどころ

- ①子どもが気持ちや意見を表出できるようにする ②辛いことでも職員と一緒に考え向き合うことができるようにする ③担当職員との愛着関係を築く ④月一度は個別時間を確保する ⑤養育のパーマネンシーを大切にす

○家族が人生のよりどころ

- ①家族への思いを受け止め気持ちや意見を表出できるように支援する ②兄妹交流を大切にす ③スモールステップで子どもと家庭の関わりを増やす ④行事等の案内を通して家庭の距離を縮める

■わたしを大切にす

MSの根拠：「わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす」

「わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす」

○わたしのこころと精神、からだを大切にす

①いかに大切に思われているかを実感し自己肯定感が育まれるように支援す ②性教育を通して自分自身を大切にできるように支援す ③CAP講習を定期的に行い、自己肯定感を育む ④こころの混乱を表出できるように支援す

○わたしの生い立ちを大切にす

①ライフ・ストーリー・ワークを通して自らの生い立ちを知る ②誕生日を祝うとともに生い立ち教育を行う ③アルバムを通して生い立ちを振り返る

○わたしのプライベートを大切にす

①プライベートにはからだや物、空間が含まれることを理解できるように支援す ②一人で落ち着くことができるプライベートな空間を確保す

■子どもの最善の利益を守る

MSの根拠：「わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす」

「わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす」

「わたしたちは、平和をつくりだす」

○子どもの最善の利益を守る運営

①子どもの最善の利益を職員全体で共有す ②CAPプログラム、セカンドステップ、ペアレントトレーニングを引き続き学習す ③安心・安全で楽しめる生活環境を提供す

○子どもの最善の利益を守る将来計画の推進

①職員が評価され明確な目標のもと能力を向上させる ②自立支援計画を職員と作り実行す ③セカンドステップを基に友人との関係の在り方を学ぶ ④子どもが将来を考えるきっかけとなる体験の場を設ける

○子どもの最善の利益を守る子どもと大人の育ち

①子どもが安心できる空間を職員が協力して整える ②よい養育のため日々職員はスキルアップに努める ③小規模グループケアのできる最高の家庭的養育を行う ④子どもの立場に立って物事を考える

II. 運営管理・経営面

【2016年度分析】

- ・2017.1.30-31、三年に一度義務化されている第三者評価を受審した。
- ・2016.7.7 法人、2016.9.13 府の監査を受け、改善すべき点を改善し、より良い運営に努めた。
- ・職員配置基準以上の職員を確保し養育にあたっている。

【2017年度計画】

- ・第三者評価受審の結果を分析し運営管理・経営の改善を図る
- ・事業活動資金収支差額を意識した運営を行い管理棟の増築や大規模修繕のための積立を行う。
- ・ガーデンロイの強みを出した職員募集を行う。

III. 施設面

【2016年度分析】

- ・危険防止のため屋根に柵を設置
- ・年二回、植栽の剪定を行った。
- ・落下防止のため窓に安全柵を取り付けた。

【2017年度計画】

- ・家庭支援専門相談員の複数配置での事務所スペースの限界、及び面会室、面談室また子どものクールダウンの部屋、職員のシャワールームなどの新設増設への必要性が生じてきたためアツタ館（管理棟）の増築を検討する。
- ・地域小規模児童養護施設を賃貸方式を中心に開設準備を行う。

IV. 事業内容

【2016年度分析】

- ・差配表を取り入れ、一日の動きを申し送り確認し、柔軟な対応体制を整えた。
- ・申し送りを13時からにすることで、前日の児童の把握、伝達、対応、情報の共有など協議する時間の保障が出来た。
- ・生活日課を統一し、ホームが違っても同じ支援が出来るようにした。
- ・生活日課の意味合いとその時における支援内容について全ホームで情報共有し、支援内容の統一化と質の向上に努めた。
- ・子ども中心の自立支援計画作成に着手した。
- ・学習への取り組みが厳しい児童に対して、個別の学習支援を実施した。
- ・ガーデンエル（乳児院）との一貫養育体制を保持するため、前乳児院担当職員との個別外出を実施した。
- ・セカンドステップの質の向上を図る為、研修会のファシリテーターとして職員を派遣した。
- ・新たにカットボランティア、遊びのボランティアの導入があり、様々な大人との関わりの経験を増やした。
- ・家庭支援専門相談員を新たに1名配置した。
- ・個別時間の表、個別の支出表を作成することで支援の「見える化」を図った。
- ・ホーム支援職員を配置しホームが孤立しないようにしている。
- ・スーパービジョン体制が確立しつつある。
- ・子どもの気持ちに寄り添いながらのライフ・ストーリー・ワーク(LSW)実施に向けて準備を始めた。
- ・養育する職員を対象に心理士がこころのケアを行い、施設の状態把握に努めている。

【2017年度計画】

- ・子どもの意向が反映され目標となる自立支援計画を策定し子どもと共に実施する。
- ・小学校高学年へ子供会やクラブ活動、習い事などを通して、交友関係が大きく広がるように働きかける。
- ・全ての暴力（子どもから子ども、子どもから職員、職員から子ども）を施設全体で撲滅し、子どもが安心して暮らすことのできるガーデンロイを目指す。そのために従来からのCAPプログラム、セカンドステップ、ペアレントトレーニングを充実させるとともに、包括的暴力防止プログラム(CVPPP: Comprehensive Violence Prevention & Protection Programme)や安全委員会方式などを研究し積極的に取り入れることを検討する。
- ・思春期の課題を細かく検討し子どもたちの意向に対応する準備を行う。
- ・チームアプローチによる養育・支援を定着させるために職員を意識的に他ホームの応援に振り分ける。
- ・FSWナビシステムの機能で、アセスメント関係など、まだ十分に活用できていない部分について使いこなし、養育・支援を充実させる。

V. その他

【2016年度分析】

- ・2016年度大阪府社会福祉協議会施設部会河内会当番施設副会長施設としての役割を果たした。
- ・3年目の東大阪市福祉施設会の幹事施設の役割を果たした。
- ・第8次（6月24日～30日）、第9次（10月25日～31日）として、各1名岩手県大槌町へ職員を派遣し東日本大震災の復興支援に協力した。

【2017年度計画】

- ・カリタスジャパン岩手県大槌町ベースが最終年度となる。今後の職員派遣については現地の情報収集を行って判断する。

3. 利用者人数計画（定員数は措置児童数）

ホーム名	つくし	めだか	すみれ	ひばり	合計
定員	8	6	8	8	30
在籍予定数	8	5	8	8	29
小学生	6	2	5	8	21
幼児	1	3	2	0	6
2歳児	1	0	0	0	1
直接処遇職員	4	4	5	5	18

※上記以外に施設長1名、基幹的職員1名、家庭支援専門相談員1名、里親支援専門相談員1名、心理療法担当職員1名
個別対応職員2名、家事支援員3名、事務1名、直接処遇職員を含め合計29名

※非常勤職員 嘱託医1名、心理療法担当職員1名、管理宿直 合計3名

4. 利用者サービスの計画(健康・栄養・衛生・安全管理等)

ア)健康管理

- ・月一回の嘱託医との連絡会の実施
- ・計画的な予防接種の実施
- ・嘱託医との連携による各種科目の受診
- ・年間2回の健康診断の実施

イ)栄養管理

- ・栄養士と連携し、子どものリクエストメニューを献立に取り入れ、栄養士と一緒に食卓を囲む機会を設けた。
- ・季節行事料理の取り入れと説明を実施した。
- ・備蓄食を食事に取り入れた。

ウ)衛生管理

- ・エルの看護師の協力を得て衛生管理を行う。

エ)安全管理

- ・ヒヤリハットの充実を図る。

5. 職員処遇の計画(昇給、採用退職、福利厚生、研修等)

ア)昇給

- ・定期昇給の実施と勤勉手当年間4.5ヶ月支給

イ)採用退職

- ・常勤職員 採用4名

ウ)福利厚生

- ・一泊の職員旅行、食事会を行う。
- ・職員健康診断を年1回(直接処遇職員は2回)実施

エ)研修

- ・イエス団、厚生労働省、全国社会福祉協議会、全国児童養護施設協議会、子ども虹情報研修センター、日本こども養育研究会、日本こどものための委員会、小舎制養育研究会、近畿児童養護施設協議会、SBI子ども希望財団、大阪府、大阪府社会福祉協議会児童施設部会、同河内会、大阪児童福祉事業協会、東大阪市、東大阪市社会福祉協議会、ガーデンエルロイの研修を計画的に受講、実施する。

6. 施設・設備の整備計画(10万円以上記載)

- ・植栽の剪定
- ・事務所の増改築の準備
- ・地域小規模児童養護施設の開設準備

7. 借入金償還予定(単位 円)

No.	借入先	契約 年月日	当初 借入金額	利率 (%)	期間 (年)	最終 年度	2016年 3月末残	支払月
1	福祉医療機構	2010.2.9	70,000,000	1.6	15	2024	39,120,000	5.8.11.2

上記借入先に対する2017年度償還金および償還財源別内訳表

No.	2017年度償還金			償還財源別内訳(左記合計金額の内訳)			
	元金	利息(%)	合計	補助金	民改費繰入		
1	5,280,000	594,240(1.6)	5,874,240		5,874,240		

8. 会計予算の状況

- ・特記なし

9. その他特記事項

- ・特記なし

10. 2017 年度行事等計画書

より家庭的な養育をめざすために、地域であるものはそれに参加し、様々な経験をする機会を作る。ホーム単位を原則に、さらに少人数で、また季節や子どもの育ちに応じて、伝統行事をはじめ余暇活動などを積極的に行う。

* 定例行事(職員会議、月例保護者会等)

にこにこ (月 1 回: 担当職員が個別に時間を取り、頑張っていることや要望、嫌だったことなどを聴き取りする時間)

- ・職員 : 職員礼拝 (毎朝)、エルロイ合同申し送り会 (毎朝)、ロイ申し送り会 (毎日 13 時)、
嘱託医連絡会 (月 1 回) 嘱託医往診・予防接種 (随時)、入所時検診
主任会 (毎週)、全体職員会議 (月 1 回)、ホーム会議 (随時)、スーパービジョン (随時)、ごちそう委員会 (月 1 回)、保健衛生委員会 (月 1 回)、危機管理委員会 (月 1 回)、心理士会 (月 1 回)、
人権委員会 (月 1 回)、
エルロイ全体研修 (偶数月)、処遇困難事例検討会 (年 1 回)、心理コンサルテーション (年 2 回)、
伝達研修 (随時)、ケース会議 (随時)、なんでも相談 (随時)
枚岡カトリック幼稚園父母会、東大阪市立上四条小学校 P T A 役員会、縄手上四条自治会連合会